夕刊 磐城時報

廿六日

福島縣石城郡平町紺屋町十四 編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四 印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢 廣告料一行十二字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

青沼町長を再選し 高級助役を設置
けふ各派代表熟議 二十九日町會で決定

平町會は二十九日午後一時から召集、豫算更生、寄附採納、その他諸件を附議した後十月十五日を以て滿期となる青沼町長の後任問題を附議する筈である。町會議員の意嚮としては青沼町長再選には異議がないが、青沼氏は過般負傷して以來健康も未だ全く回復してはをらず、加ふるに明年度には市制を施行せねばならぬ事情にあるので町長としての要務益々多端を極める實情にあるので青沼氏を町長に再選し高級助役を置かうといふ議が町會議員の殆んど全部の共通意見なので過般來その人選を行つた結果井上茂作氏を高級助役に推す運動が起つたが、井上氏說は異論もあるので今二十六日午前十一時から各派代表、野崎、關內、坂本、萩原、多田井の各議員は會議室に集合熟議を遂げたが、高級助役人選では曩に演じたやうな一波亂が免れぬもの丶如くである。

夏井川の改修 八分通り完成
好間川の工事と相まつて 水禍を根絶する

平窪村下平窪から同字森の內、同字中鹿部落並に好間村字川中子、平町北部を夏井川並に好間川の氾濫から完全に救濟しやうといふ夏井、好間兩河川の改修工事は夏井川改修事務所によつて昨年來行はれてゐたが、夏井川の方は八分通り完成引續き好間川に着手されて連日數百の人夫が出役し大築堤工事を行つてゐる。夏井川改修は平窪村中鹿地內に於て約五百五十米の山つた本川を渡り新たに好間川中子地內へ直線の新川を設け流水の便をよくし平窪村森の內地內で舊川に合流さするもので、この工事は約二萬圓、來月中旬頃新川へ通水するため目下舊川の一部を埋立てゝをり、又好間川改修は好間村川中子地內に於て夏井川と合流する河口を約五十米下流に移し、これ又約五百米の直線新川を設けて舊川好間村中子地內を廢し更に上流磐城東線好間川鐵橋まで築堤するもので、この工費約五萬圓であるが、好間川の改修の結果現在同川をサイホンによつて橫斷してゐる愛谷江筋の移動される事になつたので改修事務所では約一萬圓を投じ新好間川橫斷のサイホン工事を附帶事業として施行に決し近く工事に着手する筈である。

四倉驛助役に 今井氏着任

四倉驛主任助役橋本誠七氏は原ノ町驛助役に榮轉、後任助役として長町車掌監督支所勤務今井宗三郎氏が二十三日着任した。

小名濱商港の 第二工事運動
小野町長等上京

昭和四年以來二百八十萬圓を投じた小名濱築港第一期工事は本年度を以て完成、更に明年度より百八十萬圓で第二期工事に着手する豫定であるが、同町當局は現在の三千噸級の船舶橫付岩壁を第二期工事によつて五千噸級汽船の入港橫付を見なくては商港としての價値が薄いとて工事促進運動中であつたが今回小野町長外町議五名が上京內務、大藏兩省に對し豫算査定を前に工事の促進陳情を行なつた尚は第二期工事は防波堤百五十間、防砂堤百間を延長し、更に兩側岩壁の本工事と浚渫護岸等を行ふものである。

逃げた銅線泥 便所で袋の鼠

內郷村堀坂居住白河町生れ高木保雄(十八)は三月頃から磐城炭礦から銅線鐵材等を窃取してゐたが二十五日午後十時頃同炭礦倉庫から盜み出さうとしてゐたのを春川巡査が發見誰何した處逃走したので炭礦勞動課員の應援を得て追跡し共同便所に逃げ込んだのを捕へた同人は少年時代から盜癖があり白河小僧、アルプス小僧の異名をとつてゐたものである。

▲第三校運動會

平第三小學校秋期運動會は明二十七日午前八時から同校庭で擧行する。

河北機 平に飛來

來月二日の仙臺遞信局管內簡易保險二十週年記念に際す都市訪問河北機は同日午後四時半頃福島—郡山を經て平町上空に飛來する。

娘の脣まで シャブル父親
途方に暮れて平署に縋る

二十五日夜九時頃平署に救ひを求めて來た女は宿直の鈴木部長が調べた處、平町四丁目五九料理店大越たかよ方酌婦茨城縣猿島郡古河町喜兵衛(五七)二女大出きみい(一九)で、今年二月前借三百余圓で同家に住み込んだが間もなく身が持てぬ實夫喜兵衛は再三同人に金の無心をしては酒代とし、同夜も泥醉して暴れ込み酌婦では金にならないから娼妓に賣ると毆打暴行したので、その旨平署に訴え出でたものである。同署では喜兵を留置の上今朝嚴重說諭して歸らせた、喜兵衛は本年三月にも暴行して檢束された事があり、息子達も見離してゐる。

鰮製品の 改良補助金

小名濱水産試驗場では本年度から農林省で交附する事になつた鰮製品改良設備補助規定により小名濱、江名四倉、豐間、勿來各町村該當者から補助金交付の申請が出てをるので實地調査の上主務者に上申する事になつた。本郡の鰮アグリ網漁業は逐年盛んになり現在三十七統に達してをり、その製品百萬圓を突破するといふ盛況なので今回の補助金交付規定は有意義なものとして歡迎されてゐる。

三百圓を 拾つた正直者

平町月見町竹細工商蒲木春吉さん(七〇)は二十五日午後二時半頃同町南町路上でハドロンの封筒に包んだ現金三百二十五圓を拾得平署に屆け出でたが、右は農工銀行平支店の小使が新川町郵便局に切手を買ひに行く途中落したものと判明、同支店から謝禮三十圓を贈つたが春吉さんは正直者として町でも評判の爺さんである。

養狸組合 役員決定

石城郡南方面養狸業者三十名の座談會は廿三日午前十時より鮫川諮揚事務所において開催、最古參で現在最多數の飼育者である湯本町高木巳之吉、玉川村鈴木貞平、植田町櫛田四郎諸氏の經驗談等あり、終つて石城養狸組合を結成し役員として

組合長高木巳之吉、副組合長櫛田四郎、遠藤喜三郎(會計)組合長及副組合長兼任、(評議員)湯本町金成嘉吉、玉川村鈴木定平、泉村吉田喜八、小名濱町飯塚榮一郎、渡邊村高木勇、上遠野村渡邊好美、植田町下山田武助、錦村屋代正志、川部村蘭部雅美、勿來町福澤久左衛門、山田村下山田嘉一郎

の諸氏を擧げ、尚將來益々統制ある立派な組合として福利增進を計る事となつた

大浦副組頭任命

大浦消防副組頭片寄甚之丞氏は家事都合上辭職し、後任として第七部々長小頭鈴木久助氏が二十三日付を以て任命せられた。

四倉管內の 產看受驗者

本縣に於ける本年度第二回の產婆並に看護婦の試驗は來る十月六、七、八日の三日間に亘り郡山市公會堂に於て執行するが、四倉署管內よりの受驗者は十五名にして、內產婆四名、看護婦十一名であるが、〆切は去る二十日迄である。

同宿の 金を盜む

好間村大字北好間坂津飯場止宿古河炭礦雜夫伊達郡川俣町字橋本生れ菅野正美(二九)は去る十四日同宿の小林元治郎所有の現金五圓二十錢を窃取した外他に四件の現金泥を働き二十六日平署に檢擧された。

傷害犯人 宮城で捕はる

平町材木町伊藤留太郎(三五)は小名濱漁業小野寅次郎方に雇はれ中去る十四日同僚の伊藤常二と口論し短刀で同人の脇腹を抉り瀕死の重傷を負はせてどこかへずらかつたが、二十五日正午頃宮城縣塩釜署に捕つた。

神社の 立木盜伐

高久村下山口農小野光衛(三〇)は昨年九月末同村二荒神社境內の松檜數百本(三十圓)を盜伐した事發見二十五日平署に檢擧された。

▲四倉繭市場

晚秋繭も愈々出廻りが盛んとなり二十五日の四倉市場は出荷五百貫に達した、相場は高値四圓九十八錢、安値四圓四十錢、平均四圓六十六錢である。

時代の要求

皆様の足？

尼子タクシーへも豆タクが入りました

御玄關から玄關へ　迅速簡便是非御利用を

市内　三〇錢
市外　四割引

流線型セダン
大型貸切バス

宮行——直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします

平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

和洋銅鐵金物問屋
㊀釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

醬油と味噌
鹽屋
福島縣平町
明治生命　磐城代理店　山崎與三郎
電話（營業部專用一〇番 一般用二七番）
振替口座 東京一九七五五番

◎實用編物
毛糸大安賣!!
是非御用命願ます
三井呉服店
平電話三十八番 二八四番

かまぼこ　製造
折詰屋
お惣菜用さつま揚・吉原揚
平町一丁目
不二屋
電話一四一番

石炭
コークス
豆炭
平驛前
㊀**阿部石炭店**
電話三七番

魚名すぶら
ヒラメル凍魚
◎新鮮な冷凍貝やき……十三錢
日本水產手特約(電三八・三六番)
製氷會社
配達ご注文一箱即日迅速發送
御賣捌所 **平魚問屋**
平町四丁目 五二八番
おいしい
エ　鯛　北寄貝
白　ビ　魚　帆立貝
ワカサギ　甘　鯉　目抜切身
甲　カ　イ　うに貝燒

醸造石數四千石
昭和二年以來連續優等入賞
醸造元
山形縣西村山郡
酒錦
寿
◎◎◎◎御披露中特價一、四〇
平町四町
永山酒店
電話二〇七番
設樂規矩三郎

御旅行に
素晴しい乘心地の！
三五年式流線型新車を!!
是非御利用御用命の程を御願申します
平二
三井タクシー
電話六五八番

開院
皮膚科專
泌尿器科專
花柳病科門
診療　午前八時ヨリ
時間　午後九時マデ
平町田町（山内醫院跡）
江尻醫院
電話六九一
入院隨意
醫學博士　江尻伊三郎

外科一般
內臟外科　レントゲン科
北川外科
平町新川町（諸橋醫院跡）
醫學博士　北川芳夫
小林良次
電話四六四番
（血液檢査毎日）
イツデモ入院出來マス